

IV 事業概要

1 展示学習事業 〈企画展〉

(3) 収蔵庫展 高橋雄一コレクション

① 期間 平成 24 年 9 月 16 日(日)～平成 24 年 11 月 23 日(金)

② 会場 仙台市科学館 3 階 生活系展示室 WOODS コーナー

③ ねらい 仙台市の昆虫研究家として高名な、高橋雄一氏から寄贈いただいた標本を解説パネルとともに展示することで市民に昆虫の多様性を紹介する。

④ 内容 国内の身近な昆虫の標本に絞り、それぞれの目の特徴やガとチョウの違いなど来場者の疑問に答える解説パネルを展示した。



会場正面



会場の様子



質問に対応する高橋氏



会場の様子



昆虫に見入る子供

ゲンゴロウ科 ガムシ科

両科とも水中で生活する種がほとんどだが、ガムシ科には陸上で生活するものもある。体型は潜水に適した紡錘形である。ゲンゴロウは中、後肢に遊泳毛をもち、泳ぐのに適したつくりになっている。ガムシは遊泳毛の発達は弱い。ゲンゴロウは肉食性であるが、ガムシは草食性である。

解説パネルの例

チョウ目、蛾類、 蝶類について

「チョウとガはどう違うのですか」と聞かれることが多いが、分類上は同じ仲間に分けることが難しく、無理な昆虫たちである。体に比べ大きく広い4枚の翅をもつという特徴がある。完全変態の昆虫で、幼虫期はほとんどが植物を餌としている。

種によって生活の様子は様々で、卵で越冬、幼虫で、蛹で、成虫で、と種ごとに越冬の様子は決まっている。また年1世代のもの、年に数世代を繰り返すものもある。宮城県内にはチョウ類が約120種、ガ類が約2500種生息する。